

平成 28 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2017
新潟県長岡市教育委員会

平成 28 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2017

新潟県長岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査、開発工事中に実施した立会調査の報告である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、新田（1・6・9・10）、山賀（2・7）、鳥居（3・4・5・8）で分担し、編集は新田が行った。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における■は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

ア株式会社新潟支店 岩塚製業株式会社 株式会社植木組 株式会社大石組 株式会社中越興業
株式会社永井工業 国際石油開発帝石株式会社 堺町町内会 高瀬不動産株式会社 長岡砂利採取販売協同組合
新潟県長岡地域振興局都市整備部道路・都市整備課 新潟県教育庁文化行政課 花園南部土地区画整理組合
株式会社星野組 安藤正美 石坂圭介 駒形敏朗 小山泰

目 次

1 平成26年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2 十二ノ木遺跡確認調査	3
3 土合地区試掘調査	4
4 上条地区試掘調査	5
5 長岡城跡近接地立会調査	6
6 深沢大沢遺跡近接地立会調査	8
7 藤橋遺跡確認調査	9
8 十日町地区試掘調査	10
9 浦畑遺跡近接地立会調査	11
10 村前遺跡確認調査	12



第1図 長岡市の位置



写真1 調査風景（十二ノ木遺跡）

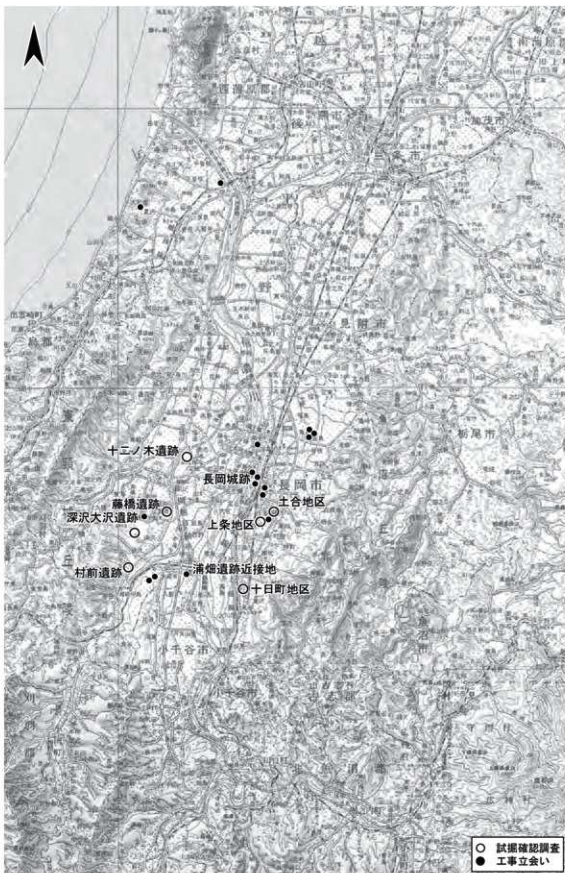
1 平成 28 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

平成 28 年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は 7 件である。このほか、諸開発に伴う立会調査を 20 件実施した（平成 29 年 3 月 1 日現在）。平成 24 年度以降、試掘・確認調査件数は横ばい傾向が続いていたが、今年度は増加に転じている。同様に立会調査の件数も増加し、過去 10 年で最多となっている。平成 25 年度以降は中心市街地再開発事業地や区画整理事業地での開発行為に係る調査が多く、その傾向は今後も続くと思される。

本年度実施の試掘・確認調査 7 件のうち、遺構や遺物が検出されたのは 5 件である。公園園路整備事業に係る岩野原窟跡確認調査では竪穴 3 基と土坑 1 基を検出し、土師器・須恵器が出土している。この詳細は平成 29 年度刊行予定の調査報告書に譲りたい。個人住宅及び集合住宅建設に伴う藤橋遺跡確認調査では、時期不明の土坑を検出したものの、遺物は出土せず、調査地は集落跡の外だと判断された。県道整備事業に係る上条地区試掘調査、除砂利採取事業に係る十日町地区試掘調査では、いずれも珠洲焼片が出土している。駐車場建設に係る村前遺跡確認調査では、9 世紀前半～中葉の須恵器・土師器と遺構を検出し、周知の範囲よりも遺跡が広がっていることを確認した。

第 1 表 平成 28 年度長岡市内遺跡調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	草薙遺跡	県営掘場整備事業	立会 遺構なし/土師器
	吉竹北遺跡	県営掘場整備事業	立会 遺構なし/土師器
長岡	長岡城跡	事務所建設（建替）	立会 遺構・遺物なし
	土台地区	特養老人ホーム建設	試掘 遺構・遺物なし
	長岡城跡	集合住宅建設	立会 遺構・遺物なし
	岩野原窟跡	公園園路整備事業	確認 竪・土坑/土師器・須恵器
	長岡城跡	建物解体・個人住宅建設	立会 遺構・遺物なし
	處王堂城跡	個人住宅解体	立会 遺構・遺物なし
	上条遺跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし
	深沢大沢遺跡近接地	火力発電所建設	立会 遺構なし/土師器
	藤橋遺跡	個人住宅・集合住宅建設	確認 土坑/遺物なし
	古村遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
	五百対遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構なし/土師器・須恵器・木柱
	坂間遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構なし/土師器・須恵器
	長岡城跡近接地	集合住宅建設	立会 遺構なし/近世陶磁器
	上条地区	県道整備事業	試掘 遺構なし/珠洲焼
	十日町地区	除砂利採取事業	試掘 遺構なし/珠洲焼
	十二ノ木遺跡	市道改良事業	確認 遺構・遺物なし
	上条遺跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし
	上条遺跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし
	上条遺跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし
	上条遺跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし
長岡城跡	店舗建設	立会 遺構・遺物なし	
越路	浦郷遺跡近接地	ガス関連事業	立会 土坑/土師器
	立矛遺跡	ガス関連事業	立会 遺構・遺物なし
	中山遺跡	ガス関連事業	立会 遺構・遺物なし
	村前遺跡	駐車場建設	確認 土坑/土師器・須恵器・珠洲焼



第2図 平成28年度調査位置図 (1/250,000)

2 十二ノ木遺跡確認調査

調査地	長岡市塚町	調査面積	21.8㎡ (対象面積 5,700㎡)
調査期間	平成 28 年 11 月 7 日・8 日	調査担当	山賀和也

調査に至る経緯 長岡地域から与板地域の利便性の向上を図るため長岡・三島ふれあい道路整備事業が進められており、長岡市土木部道路建設課（以下、事業者）から埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。事業計画地の一部には十二ノ木遺跡の範囲が及ぶため、事業者事前に確認調査を実施する必要がある旨を伝え合意を得た。調査は、事業の進捗に合わせて平成 28 年秋に行うこととした。

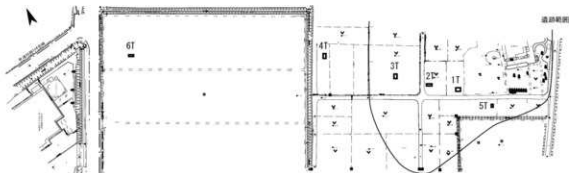


第3図 調査位置図 (1/50,000)

調査地の概要 調査地は信濃川左岸の沖積地内の微高地上に位置しており、標高は約 22 m である。遺跡は、平成

4 年の遺跡分布調査で発見され、珠洲焼が採集されている。周辺には、古代の長岡浦田遺跡と村中遺跡がある。

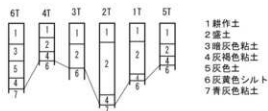
調査の結果 調査対象地にトレンチを 6 箇所設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。1～5 T では、2 T に向かって落ち込んでいる状況が確認できた。6 T は、最下層で青灰色粘土層が確認された。いずれのトレンチも遺物、遺構は発見されなかった。耕作者の話では、調査地より北側の畑地では耕作中に 50～60cm ほど掘ると土器が出土することがあるとのことであり、踏査すると土器の細片が見られる。また、見せていただいた土器は須恵器と珠洲焼であった。以上のことから、調査地には遺跡が広がらないが、調査地より北側に古代及び中世の遺跡があると考えられる。



第4図 トレンチ配置図 (1/2,000)



写真2 4 T 土層断面 (南から)



- 1 耕作土
- 2 壤土
- 3 暗灰色粘土
- 4 灰褐色粘土
- 5 灰色土
- 6 灰黄色シルト
- 7 青灰色粘土

第5図 土層柱状図 (1/40)

3 土合地区試掘調査

調査地	長岡市土合町	調査面積	48.0㎡ (対象面積 1,394.7㎡)
調査期間	平成 28 年 4 月 21 日～ 22 日	調査担当	鳥居美栄

調査に至る経緯 特別養護老人ホーム建設事業（以下、本事業）の計画があり、平成 28 年 4 月、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行った。本事業は花園南部土地区画整理（以下、区画整理）事業地内に計画された。区画整理事業地については平成 22 年 3 月に埋蔵文化財包蔵地の問合せがあり、所在しない旨を回答した。その後、上条遺跡など沖積地での遺跡の発見があり、区画整理事業が本格化した平成 25 年 6 月から、区画整理事業者である区画整理組合、事業を所管する長岡市都市整備部都市開発課、長岡市教育委員会の三者で協議を行った。その結果、区画整理事業については試掘調査を行わず、旧水田耕作土より深く掘削する商業施設等が計画される場合は試掘調査を行うこととした。本事業については掘削深度が深い建物部分を対象に、区画整理組合から重機の提供を受けて試掘調査を行うこととなった。

調査地の概要 調査地は信濃川右岸の沖積地に位置する。区画整理前は水田であり、標高は約 26 ｍであった。針伏丘陵上には周知の遺跡が所在するが、調査地やその周囲には周知の遺跡は所在しない。

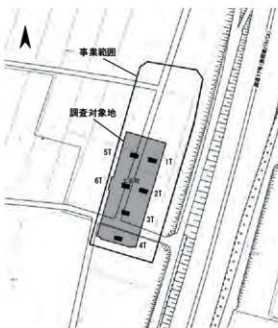


第 6 図 調査地位置図 (1/20,000)

調査の結果 任意の箇所調査トレンチを 6 箇所設定し、バックホウで掘削を行った。旧水田耕作土の下は青灰色のシルト、粘土、砂が堆積する。いずれのトレンチからも遺構・遺物は出土せず、調査地に遺跡は所在しないことを確認した。



第 8 図 土層柱状図 (1/50)



第 7 図 トレンチ配置図 (1/2,000)



写真 3 4 T 完掘状況 (東から)

4 上条地区試掘調査

調査地	長岡市上条町・宮内町	調査面積	124.0m ² (対象面積26,000m ²)
調査期間	平成28年10月18日・19日、11月4日	調査担当	島居美栄

調査に至る経緯 一般県道滝谷三和線上条改良事業が計画され、長岡市教育委員会は、平成28年7月20日、新潟県長岡地域振興局地域整備部（以下、事業者）と協議を開始した。周辺には遺跡が複数存在しており、遺跡の広がりや、未周知の遺跡の所在を確認するため、試掘調査を実施することとなった。

調査地の概要 調査地は、信濃川右岸の沖積地内にあり、標高は約24mである。上条町集落の南端にある八幡神社とその周辺は、戦国時代の上条城跡が所在するとされるが、宅地化が進み堀や土塁は失われている。また、周辺には上条谷内遺跡や山伏遺跡、上条遺跡などの古代や中世の遺跡が点在する。

調査の結果 任意の箇所に調査トレンチを16箇所設定し、バックホウ及びび人力で掘削を行った。3Tを除く1T～5T、14T～16Tは上条城跡の堀跡の確認を目的に設定したが、堀跡があることを裏付けるような落込みや土の堆積は見られなかった。3Tにおいて珠洲焼の播鉢底部破片が1点出土し、また、溝状の落込みや、掘り込みの境界が明瞭ではない不整形な落込みを検出した。1T～5Tの状況と、6Tから遺構・遺物は出土しなかったことから、3Tの落込みを中世以前とする根拠は乏しい。7Tからも遺構・遺物は出土せず、調査対象地の東部分には遺跡は広がらないと判断した。西部分では、8T～13Tにおいて暗灰褐色～黒褐色土層を確認したが、遺構・遺物とも全く出土しなかった。住宅周辺及び西側の田の一部については、公有化後に試掘調査を実施する予定である。



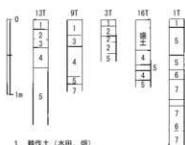
第9図 調査地位位置図 (1/20,000)



写真4 16T完掘状況(西から)



第10図 トレンチ配置図 (1/5,000)



- 1 耕作土(水田、畑)
- 2 暗灰色～暗灰褐色粘土
- 3 暗灰褐色～黒褐色土
- 4 灰褐色～黄褐色粘土～シルト
- 5 灰褐色～黄褐色シルト～砂
- 6 黄灰色粘土～シルト
- 7 黄灰色シルト～砂

第11図 土層柱状図 (1/50)

5 長岡城跡近接地立会調査

調査地	長岡市表町4丁目	調査面積	6㎡
調査期間	平成28年10月17日	調査担当	鳥居美栄

調査に至る経緯 平成28年8月、周知の埋蔵文化財包蔵地である長岡城跡の近接地においてマンション建設計画があることが分かり、長岡市教育委員会は事業者者に協議を申し入れ、施工業者と協議を行った。事業地は遺跡の範囲外であるが、絵図などから堀跡が推定されている箇所近くであり、堀跡の有無を確認するために工事に立ち会いたい旨を伝えたところ、施工業者と事業者からの了解を得た。

調査地の概要 長岡城跡は信濃川右岸の沖積地内にある。17世紀初頭から城及び城下町が築かれ、藩政の中心地として約250年間利用された。北越戊辰戦争や第二次世界大戦時の空襲、市街地開発などの結果、現地表では土塁や堀は確認できない。調査地も近代以降に開発が繰り返され、更地となっている。

調査の結果 マンション本体の建設に伴う掘削範囲のうち、遺跡に近い南東部の掘削工事に立ち会った。これまでの開発による覆乱土が約1.3m堆積している。覆乱土層中の深さ0.5～1.3m付近は焼土や炭化物などが多く含まれており、長岡空襲後の整地の痕跡と見られる。覆乱土を除去すると地山と見られる黄褐色～青灰色シルト層となる。堀跡と見られる落込みは確認されなかったが、立会範囲の南部分において直径約0.7m、深さが地山面から約1.8mの円形の落込みを検出した。覆土は黒色～暗青灰色土で、大量の焼土、炭化物を含み、近世から昭和の陶磁器が混在して出土した。底部付近からも近代陶磁器が出土しており、空襲で被災した家財などを廃棄した素掘りの井戸跡であろう。排土から近世の陶磁器を中心に回収して工事立会を終了した。なお、立会を行った箇所の東側は駐車場の計画であり、工事は覆乱土層内に取りまわす計画であることから立会は不要とし、施工業者に依頼して工事を進行させた。

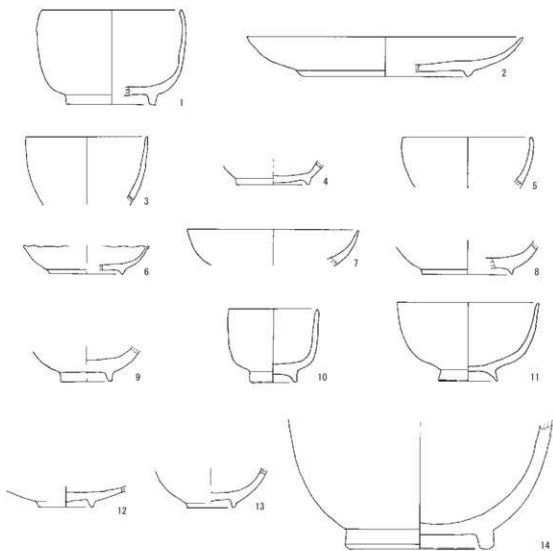
回収した陶磁器のうち、近世に属すると見られる資料は21点である。いずれも遺存率が低く、14点を図示した。肥前系磁器(1～11)が21点中16点と大半を占め、京・信楽系陶器(13)が2点、肥前系陶器(12)1点、産地不明の陶器(14)が2点ある。1は17世紀中～後半の皿である。2は17世紀後半の中皿で、高台内にハリ支えとその痕跡がある。3は外面が二重網目文の碗、4は高台内に「大明年製」の銘がある大碗で、いずれも17世紀後半。5は外面に二重網目文、内面に一重網目文がある碗、6は口縁が輪花の皿で、18世紀前半に位置付けられる。7・8は18世紀中～後半の波佐見焼の皿である。9は外面に二重網目文のある碗、10は底部の厚い小碗で18世紀後半に位置付けられる。11は19世紀前半と見られる碗。12は蛇の目輪刺ぎが施される皿、13は碗である。14は甕であろうか。12～14の時期は不明である。



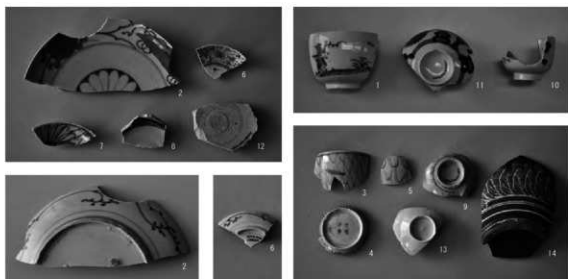
第12図 調査地位置図 (1/20,000)



第13図 立会調査箇所位置図 (1/2,000)



第14図 遺物実測図 (1/3)



皿 (上: 内面、下: 外面)

碗、その他

写真5 出土遺物 (縮尺不同)

6 深沢大沢遺跡近接地立会調査

調査地 長岡市深沢町字大沢
調査期間 平成28年8月2日

調査面積 2560㎡ (対象面積 256㎡)
調査担当 新田康則

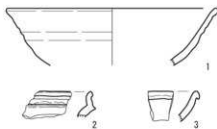
調査に至る経緯 平成28年2月5日受理の文書にて、長岡市都市整備部都市計画課から西部丘陵東地区産業ゾーン（拡張エリア）基盤整備工事に係る埋蔵文化財包蔵地の取扱いについての照会があった。周知の埋蔵文化財は所在せず、また、近接する深沢大沢遺跡は炭窯跡とされ、この範囲が広がる可能性が低い。したがって、確認調査を不要と判断し、工事に立会調査を実施することとした。

調査地の概要 東頸城丘陵から派生した西山丘陵上に位置する。スペースネオトピア工事用道路建設により、深沢大沢遺跡が発見されている。遺跡は既述のように炭窯跡とされる。土師器片の出土も記録されているが詳細は不明である。

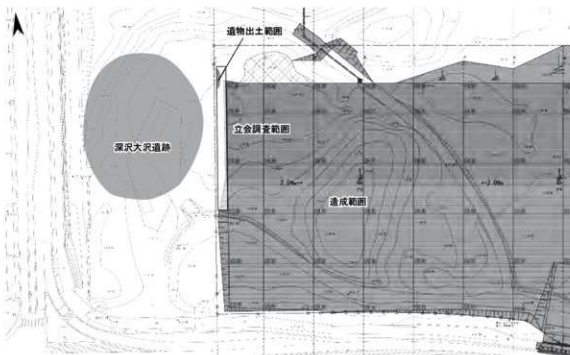
調査の結果 用地北東端で土師器片を検出した。盛土層から出土しており、深沢大沢遺跡からもたらされた可能性が示唆される。いずれも9世紀後半～10世紀初頭の所産と考えられるロクロ土師器の碗・甕類で、このうち3点を図示した。1と2は碗、3は小甕である。2では口縁端部が屈曲し、特徴的である。



第15図 調査地位置図 (1/50,000)



第16図 土器実測図 (1/2)



第17図 立会調査範囲図 (1/1,500)

7 藤橋遺跡確認調査

調査地	長岡市藤橋1丁目4428番1 ほか	調査面積	70.5㎡ (対象面積 305㎡)
調査期間	平成28年8月18日、9月14日	調査担当	山賀和也

調査に至る経緯 平成28年4月、個人住宅及び集合住宅建設に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。照会地は藤橋遺跡の範囲内であるため、事業着手前に確認調査を実施する必要がある旨を回答した。調査は、事業の進捗状況に合わせて実施することとした。

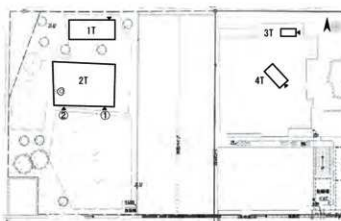
調査地の概要 調査地は信濃川左岸の河岸段丘面（上富岡面）上に位置する。縄文時代晩期の大規模な集落跡である。これまでに発掘調査は7回実施され、縄文時代中期から晩期の土器が出土しており、中でも大部分を占めるのが晩期の土器である。また、多数の柱穴が検出され、7棟の柱立建物が発見されている。遺跡は、昭和53年には国の史跡に指定されている。

昭和51年に実施された遺跡全体を把握するための確認調査の結果、遺物が集中している部分は4地点に分かれていることが確認された。今回の調査地は、それからは外れている。また、同年実施された道路拡幅事業に伴う確認調査においても、今回調査地付近での遺物の出土はなかった。

調査の結果 事業予定地にトレンチを任意で設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。いずれのトレンチも表土直下には暗褐色土が堆積し、地表から40～60cmのところで黄褐色土層に到達する。2Tでは、土坑を検出したが、遺物は出土せず時期は不明である。このほかは、いずれのトレンチからも遺物は出土せず、これまでの調査で把握されている状況を追認した。以上の結果から、事業予定地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



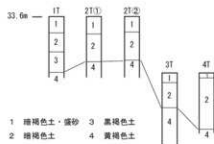
第18図 調査位置図 (1/20,000)



第19図 トレンチ配置図 (1/500)



写真6 2T完掘状況 (東から)



第20図 土層柱状図 (1/40)

8 十日町地区試掘調査

調査地	長岡市十日町	調査面積	187.2㎡ (対象面積 7.325㎡)
調査期間	平成 28 年 10 月 26 日・27 日	調査担当	鳥居美栄

調査に至る経緯 平成 27 年、白倉館跡周辺において除砂利採取事業が計画されたことから、長岡市教育委員会（以下、市教委）は確認調査を実施し、十日町集落緑地の水田内に遺跡が広がる可能性が高まった（長岡市教委 2016）。事業者である長岡砂利採取販売協同組合が、事業地を北に広げることを計画していたため、市教委は事業者と協議を行い、新たな計画地において試掘調査を行うこととなった。

調査地の概要 調査地は信濃川右岸沖積地の水田で、標高は約 30 m である。自然堤防上に十日町集落が営まれ、集落の南端にある専福寺付近に中世城館である白倉館跡が所在する。

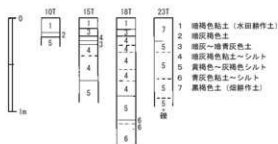


第 21 図 調査地位置図 (1/20,000)

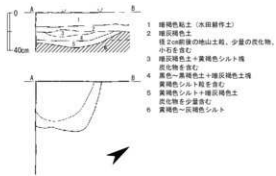
調査の結果 任意の箇所に調査トレンチを 16 箇所設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。トレンチ番号は昨年度調査の続きである 9 T から付した。9 T において、周辺にはない黒色～黒褐色土を覆土に含む土坑 1 基を検出したが、時期は不明である。11 T から珠洲焼 1 点と近世陶磁器数点が出土した。それらほかに遺構、遺物は出土しなかった。9 T の土坑の判断が難しいところであるが、遺跡の北限は 9 T 付近とした。事業者は 9 T 付近を掘削範囲から除外した設計内容とすることを決めた。



第 22 図 トレンチ配置図 (1/2,000)



第 23 図 土層柱状図 (1/40)



第 24 図 9 T 土坑 平面・断面図 (1/40)

9 浦畑遺跡近接地立会調査

調査地	長岡市来迎寺	調査面積	176.0㎡ (対象面積 176㎡)
調査期間	平成 28 年 8 月 8 日～9 月 8 日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 平成 27 年 12 月 15 日、国際石油開発帝石株式会社から、同社越路原プラントへの市水導入工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。照会地は立矛遺跡と中山遺跡の範囲を含み、浦畑遺跡に近接する。立矛遺跡・中山遺跡範囲内での工事は配管工であり、掘削幅が狭いため立会調査を実施することとし、加えて受水施設が建設される浦畑遺跡近接地においても、立会調査を実施することとした。以下では、遺構・遺物を検出した浦畑遺跡近接地の調査結果を報告したい。

調査地の概要 信濃川左岸に形成された越路原Ⅲ段丘西縁に位置し、浦畑遺跡の南西に近接する。越路原Ⅱ段丘面の段丘崖に続く緩斜面地であるが、耕作等の利用で削平を受けている。改変が地山層まで及んでいることが予想された。

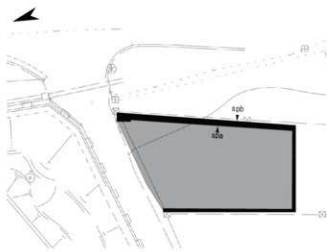
調査の結果 施設外周のフェンス基礎と排水溝、及び整地工を対象に立会調査を行った。その結果、調査前の予想とおり、改変が地山層まで及んでいることが判明したが、用地外側の排水溝掘削地に遺構断面を2基検出した。ただし、整地工が表土層にはほぼ終始し、面的に遺構分布を把握するには至らなかった。一方で、表土層からは土器が少量出土している(写真)。これらは縄文時代晩期、および弥生時代末～古墳時代前期に属すると推測されるが、いずれも断片であり、全容は不明である。



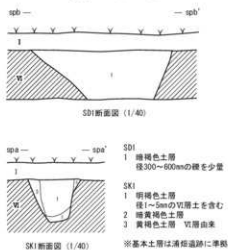
第25図 調査地位置図 (1/20,000)



写真7 出土土器



第26図 調査区位置図 (1/400)



10 村前遺跡確認調査

調査地	長岡市沢下条字村前	調査面積	85.0㎡ (対象面積 8,568㎡)
調査期間	平成 28 年 11 月 8 日～11 月 9 日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 平成 28 年 5 月 27 日、岩塚製菓株式会社沢下条工場の駐車場用地に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。協議の結果、村前遺跡を含む範囲を事業地とし、確認調査を実施して、事業計画に反映させることとした。

調査地の概要 浪海川左岸に形成された河岸段丘（岩田面）に位置する。調査地の東には岩田遺跡が知られる。調査区の西側隣接地では、平成 12 年に旧越路町教育委員会が確認調査を実施し、9 世紀の遺物が出土している [新田 2006]。

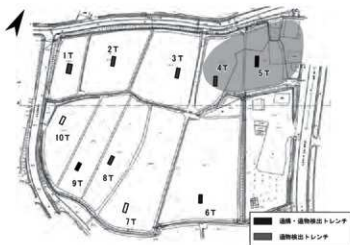
調査の結果 10 箇所のトレンチ調査を実施した結果、8・9 T 付近を中心として、用地全面に 9 世紀の遺跡が広がっていることを確認した。かつて報告者は、岩田遺跡と村前遺跡とを一体のものとし、役所の施設跡と、その外側に展開する集落跡と推測した [新田前掲]。今回の調査結果は、その推測に沿うものだろう。

遺物実測図を第 30 図に示した。図化資料に示されるように、古代の資料は 9 世紀前葉～中葉の在地窯産が多くを占め、小治窯産が少量加わる。1 は 5 T から出土した須恵器の瓶類。小治窯産だろう。2 は 7 T 出土の須恵器甕。3～18 は 8 T 出土。3～10 は須恵器、11～16 は土師器、17 は土鍾、18 は珠洲焼堿の体部片である。3 は坏蓋で、硯に転用されている。4 は有台坏、5～8 は無台坏。5 では体部の打ち欠きと見込みの墨痕が確認できる。6 と 7 には墨書を確認できる。10 は甕の体部片で、漆が内外面に付着する。11～12 は無台坏、13 は小甕、14 は長甕、15 は鍋で、16 は平行タタキ痕が確認される。19～26 は 9 T 出土。19～23 は須恵器、24・25 は土師器、26 は珠洲焼の体部片である。19・20 は坏蓋で、20 は硯に転用されている。21 は有台坏、22 は無台坏、23 は貯蔵具。24 は有台の皿。25 には平行タタキ痕が確認される。

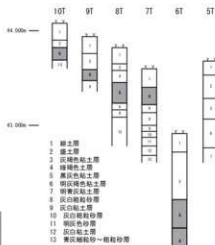
調査結果を基に事業者と協議を行った結果、現況盛土等によって保護層を確保する設計が採られることとなり、遺跡は現状保存されることとなった。



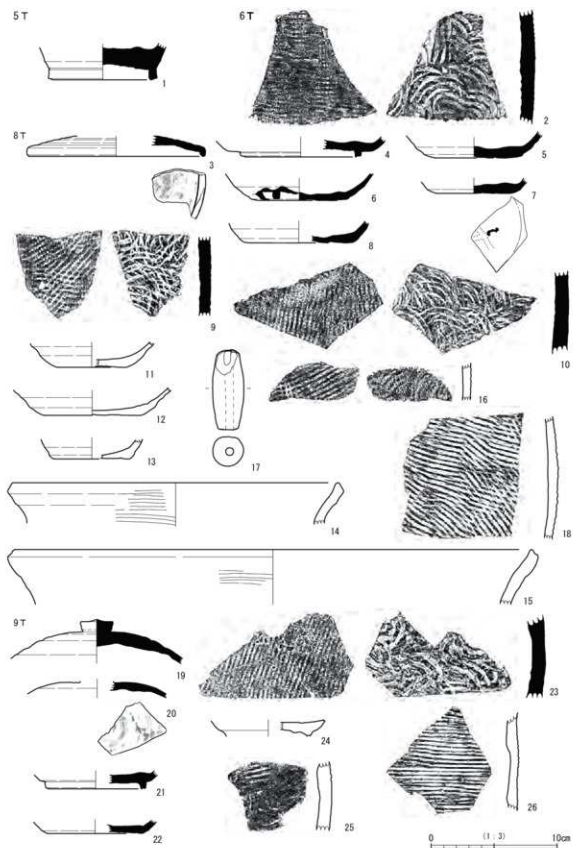
第 27 図 調査区位置図 (1/10,000)



第 28 図 トレンチ配置図 (1/2,000)



第 29 図 土層柱状図 (1/40)



第30圖 遺物実測圖 (1/3)

参考文献

岡南の郷土誌編集委員会

1985 『岡南の郷土誌』 岡南中学校後援会

越路町教育委員会

1992 『岩田遺跡』 越路町教育委員会

1997 『岩田遺跡 第二次発掘調査報告書』 越路町教育委員会

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』 資料編 1 考古

長岡市教育委員会

2006 『平成 17 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成 18 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成 19 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成 20 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成 21 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『平成 22 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2012 『平成 23 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2013 『平成 24 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2014 『平成 25 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2015 『平成 26 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2016 『平成 27 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会

1977 『埋蔵文化財調査報告書 藤橋遺跡 尾立遺跡 旧富岡農学校跡遺跡』 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会

1977 『埋蔵文化財調査報告書 藤橋遺跡』 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会

新潟県考古学会

1999 『新潟県の考古学』 高志書院

新田康則

2006 『長岡市沢下出土資料』 『越佐補遺誌』 第 11 号 越佐補遺誌の会 64-65 頁

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうはちねんどうながおかしないいせきはつくちょうきょうこくしょ						
書名	平成28年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	新田康明・山賀和也・鳥居美栄						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号						
発行年月日	2017年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード			調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	東緯			
十二ノ木遺跡	新潟県長岡市幸町	152021	229	37°27'32" 138°48'11"	2016.1.107 2016.1.108	21.8㎡	確認調査
藤橋遺跡	新潟県長岡市藤橋1丁目4428番1 ほか	152021	60	37°25'47" 138°47'05"	2016.08.18 2016.09.14	70.5㎡	確認調査
村前遺跡	新潟県長岡市沢下条内953番6 ほか	152021	441	37°25'51" 138°45'20"	2016.1.108 2016.1.109	85.0㎡	確認調査
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
十二ノ木遺跡	遺物包含地	中世	なし	珠西焼			なし
藤橋遺跡	集落跡	縄文	土坑	なし			なし
村前遺跡	遺物包含地	古代	土坑	須恵器・土師器・土唾			なし

平成 28 年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成 29 (2017) 年 3 月 21 日 印刷

平成 29 (2017) 年 3 月 21 日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社第一印刷所
